

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/04

為替市場全体の材料を総点検

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	引き続き米要人発言に注目 予想レンジ: 82.80 ~ 86.00 円	2-4
カナダ/円	➡	リスク・オンの円売りムード継続 予想レンジ: 85.20~ 90.50 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 3/28~4/1の主な推移

※4時間足



3/28 Monday	前週末に米連邦準備制度理事会(FRB)による量的緩和の出口戦略について意識され始めた流れを引き継ぎ、東京市場ではドル高が進行。81.84円まで上昇した(①)。しかし、82円手前の水準では上値が重く、その後は81円台後半でもみ合いに終始した。
3/29 Tuesday	夕方、ブロード・セントルイス連銀総裁の講演原稿が公表され、この中で「FRBは世界の不確実性が解消されるのを待たずに金融政策の正常化を開始する可能性がある」との文言があったことを受け、米早期金融引き締め観測が強まると、ドル高が進行。ユーロ圏の早期利上げ観測を受けたユーロ/円の上昇もドル/円の上昇に拍車を掛けた他、22時に発表された米1月S&P/ケース・シラー住宅価格指数が前年比-3.06%と予想(-3.20%)ほど悪い結果でなかったこともドル買い要因となり、82.48円まで上昇した(②)。
3/30 Wednesday	フィッシャー・ダラス連銀総裁が「量的緩和第2弾(QE2)の期間延長には反対する」と述べたことが伝わると米出口戦略が意識され、ドル/円は上昇。アジア・欧州株の堅調を受けてクロス円(ユーロ/円など)が上昇したこともあり、ドル/円は83.18円まで上昇した。ただ、欧州中銀(ECB)のビニスマギ理事が「ECBは段階的に金利を引き上げる」などと述べ、ユーロ/ドルでユーロ高・ドル安が進むと、ドル/円でもドル売り優勢となり、ドル/円は上げ幅を縮小した(③)。
3/31 Thursday	年度末の仲値公示に向けたドル需要の思惑から、一時83.21円まで上昇。仲値公示後は反落し、82円台半ばまで値を沈めたが、NY市場中に「日銀は東日本大震災の被災地の金融機関を対象に、政策金利の上限(年0.1%)で期間1年程度、総額1兆円超を貸し出す新制度の検討に入った」と報じられ、日銀による金融緩和観測が広がったことが円売り材料となった。さらに米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが行ったインタビューにて、コチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁が「政策金利は2011年後半にかけて0.75%引き上げられる可能性がある」などとの見解を示していることが明らかになり、米国の早期金融引き締め観測が強まると、米国債利回りが大きく上昇。これらを背景にドル/円は再び上昇した(④)。
4/1 Friday	前日に米早期金融引き締め観測が強まった流れを引き継ぎ、ドル/円は朝から上昇。午後に入ると、83円台後半でもみ合ったが、21時30分に発表された米3月雇用統計は非農業部門雇用者数が21.6万人(予想:19.0万人)、失業率が8.8%(同:8.9%)と、予想よりも良好な結果となったことを受けて発表直後のドル/円は急騰。さらに、プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁が「力強い回復が刺激策撤退を正当化する可能性」「2011年終盤までの利上げは確実に可能性がある」などと発言したことも米早期金融引き締め観測を煽る形となり、ドル/円は84.73円の高値を付けた(⑤)。しかし、ダドリー・ニューヨーク連銀総裁が「FRBの2つの使命達成には依然遠い」「成長について過度に楽観的になり過ぎてはならない」と発言すると、ドル/円は上げ幅を縮小した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今 週 の 見 通 し

先週のドル/円相場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)のメンバーがタカ派寄りの発言をしたり、米経済指標に良好な結果が出ると、米量的緩和策の出口戦略開始が早期化すると観測が強まってドル高が進む、と言う動きになった。先週末にFOMCの主要メンバーであるダドリー・ニューヨーク連銀総裁が地区連銀総裁が早期金融引き締め大きく傾いた論調に釘をさすような発言をしたことで、市場にも冷静さが一定程度戻ってきたと考えられるものの、依然として米国の金融引き締め時期に対する注目は高いと考えられる。今週もFOMCメンバーによる講演の機会が多く予定されているため、発言内容には注意したい。特に、5日朝には米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が発言する予定となっている。米国で急速に金融引き締めの早期化が意識され始めてから、同議長の発言はほぼ初めてとなるため、注目度はかなり高いと言えよう。バーナンキ議長はこれまで、金融政策の変更などに対してはかなり慎重な発言をしてきているが、それだけに彼の発言内容がタカ派寄りなものに変化していれば、ドルが一段高となる可能性がある。

この他、クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)の動向にも併せて注目したい。先週末までは主要国の株高や、ユーロ圏の4月利上げ観測を背景とするユーロ/円の上昇などを背景にクロス円が大きく値を上げ、ドル/円も連れ高となる場面が多く見られた。ただ、足元ではクロス円の高値警戒感もかなり強くなっており、きっかけ次第で急落することは十分あり得るだろう。クロス円が大きく下落すれば、ドル/円も連れて値を下げるとみる。また、7日の欧州中銀(ECB)の理事会で市場の大方の予想に反して政策金利が据え置かれたり、利上げを行ったとしても、トリシェECB総裁が記者会見にて今後の利上げを当分見合わせることを示唆する発言をすれば、ユーロ相場主導でドル/円が大きく上下動することも考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 82.80~86.00円)

USD/JPY

テクニカル分析

●ドル/円 4/01週足引値:84.06円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値84.73円～安値81.37円と3円36銭の狭い値幅の一週間となった。

先週は81円台前半で取引が始まったが、84円台後半を見るなど大幅な上昇の動きを見た。週末の引値84.06円は、200日線(83.61、4/01)、60日線(82.24円、4/01)、40日線(82.15円、4/01)、20日線(81.67円、4/01)を上回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(4/01時点)は上限が84.11円、下限が79.22円であり、バンドの上限、下限の両方ともに少し下落していている。

週足チャート(図1)では、先週は大きな陽線となった。2007年7月の123.63円からの上値抵抗線が今週は85.64円にあり、注意したいところ。

日足チャート(図2)では、5日連続の陽線となり、金曜日には大きな陽線が出た。先週まで上値抵抗線とされていた箇所をことごとく上に抜けてきており、買いの勢いの強さを感じさせるところである。今週も買いの勢いが続くのか、そうでない場合にはろくに値固めをせず一挙に上に持っていった分、崩れて下落する場合は早いと考えるところ。85円はキリのよい水準でもあり、気になるところだ。下落時は40日線や60日線が下値支持になると見られる。82.00～85.00円(岡田)



(図1)週足チャート
(2007年7月～)



(図2)日足チャート
(2010年11月～)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 3/28~4/1の主な推移



3/29 Tuesday	米セントルイス連銀のブラード総裁が「米連邦準備制度理事会(FRB)は世界の不確実性が解消される事を待たずに金融政策の正常化を開始する可能性がある」などと発言すると、米国の出口戦略がこれまでの予想よりも早期に開始されるとの思惑が高まりドル/円が上昇した。これにつれてクロス円も軒並み上昇し、カナダ/円は84.55円まで上昇した。(①)
3/30 Wednesday	米ダラス連銀のフィッシャー総裁が「6月以降の追加量的緩和延長に反対する」と発言するとドル/円が上昇し、これにつれてカナダ/円も上昇した。さらにその後、欧株や時間外のNYダウ先物の上昇を受けてリスクを積極的に取る動きが強まると、カナダ/円は85.76円まで一段高となった。(②)
3/31 Thursday	ミネアポリス連銀のコチャラコタ総裁が「2011年後半にかけて0.75%の利上げが必要になる可能性がある」などと発言した事が伝わるとドル/円が上昇し、これにつれてカナダ/円は85.77円まで上昇した。(③)
4/1 Friday	米3月雇用統計が、失業率8.8%・非農業部門雇用者数21.6万人増に改善(2月は失業率8.9%・非農業部門雇用者数19.0万人増)した事や米フィラデルフィア連銀のプロッサー総裁が「失業率が大きく低下する前に緩和策を終了させる必要がある」などと述べた事を背景にドル/円が上昇すると、これにつれてカナダ/円も上昇し、87.71円の高値を付けた。米雇用環境の改善を受けて米国株が上昇した事もカナダドル買い・円売りを後押しした。(④)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.88円～87.71円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約5.2%の大幅上昇(カナダドル高・円安)となった。世界的に景気回復期待やインフレに対する懸念が高まる中、欧・米では金融引き締め観測が台頭する一方で、東日本大震災の影響により日本の超低金利政策は維持せざるを得ないとの見方が広がっており、幅広く円が売られた。隣国、米国経済の影響を受けやすく、資源国通貨であるカナダドルに対しても大幅に円安が進んだ。今後についても、本邦の復興需要や脱・原子力発電ムードの高まりから、資源価格高基調が続く可能性が高く、カナダ景気にとっての追い風となりそうだ。改善が予想されている8日発表の3月加雇用統計で予想以上の改善が示されれば、カナダの早期利上げ再開観測につながり、カナダドル高・円安が一段と進む可能性もある。(神田)

(予想レンジ: 85.20～90.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●カナダ/円 4/01週足引値:87.17円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/4/01安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は反落し2010/08/24に安値78.40円を見て、3/10に高値85.58円を見て、3/17に安値77.60円を見て、その後上昇している。カナダ/円は3/17の安値77.60円から反発上昇している。取引値は20日線(83.61円、4/01)や60日線(83.52円、4/01)、200日線(82.52円、4/01)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは4/01現在、上限87.22～下限80.00円であり、バンド幅は急拡大している。

先週は5日連続での上昇となった。カナダ/円は勢いのある上昇の動きとなっているが、上値トライが失敗したようにはまだ見えず、行きつくところを見極めることとなる。

上値ポイントは89.99円(2010/06高値)であり、下値ポイントは83.61円(20日線、4/01段階)である。(岡田)

経済指標カレンダー (4/4~8)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/4	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業業況判断]	6	—
(月)	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業先行き]	2	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業業況判断]	3	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業先行き]	-1	—
	19:00		(ユーロ圏)2月生産者物価指数[前年比]	6.10%	6.70%
4/5	—		香港休場(清明節)		
(火)	10:30	○	(豪)2月貿易収支	+18.75億AUD	—
	13:30	○	(豪)RBAキャッシュターゲット	4.75%	4.75%
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前月比]	0.40%	—
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前年比]	0.70%	—
	23:00	◎	(米)3月ISM非製造業景況指数	59.7	60
	27:00	◎	(米)FOMC議事録(3月14・15日分)	—	—
4/6	—		(日)日銀金融政策決定会合(~7日)	—	—
(水)	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[先行CI指数]	101.5	104.2
	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[一致CI指数]	105.9	106.4
	17:30	○	(英)2月鉱工業生産[前月比]	0.50%	0.40%
	17:30		(英)2月製造業生産高[前月比]	1.00%	0.50%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	0.30%	0.30%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	2.90%	0.50%
	19:00		(独)2月製造業受注[前月比]	2.90%	0.50%
	23:00		(加)3月Ivey購買部協会指数	69.3	—
4/7	—	○	日銀金融政策決定会合(6日~発表)	0.00-0.10%	0.00-0.10%
(木)	10:30	◎	(豪)3月新規雇用者数	-1.01万人	—
	10:30	◎	(豪)3月失業率	5.00%	—
	19:00	○	(独)2月鉱工業生産[前月比]	1.80%	0.50%
	20:00	○	(英)BOE政策金利発表	0.50%	0.50%
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.00%	1.25%
	21:30	◎	(米)4/2までの週の新規失業保険申請件数	38.8万件	—
	21:30		(加)2月住宅建設許可[前月比]	-5.10%	—
	28:00		(米)2月消費者信用残高	+50.14億USD	+48.00億USD
4/8	15:00		(日)2月経常収支	+4619億円	+1兆7430億円
(金)	15:00		(日)2月貿易収支	-3945億円	+7441億円
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査[現状判断DI]	48.4	—
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査	47.2	—
	14:00		(日)4月金融経済月報・基本的見解	—	—
	15:00		(独)2月貿易収支	101億EUR	—
	15:00		(独)2月経常収支	+72億EUR	—
	17:30	◎	(英)3月生産者物価指数[コア:前年比]	3.10%	2.90%
	20:00	◎	(加)3月失業率	7.80%	7.70%
	20:00	◎	(加)3月雇用ネット変化	+1.51万人	+3.25万人
	21:15		(加)3月住宅着工件数	18.19万件	18.00万件
	23:00		(米)2月卸売在庫[前月比]	1.10%	1.20%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com